

エコパルなごや

春号
Vol.118

かんきょうをたのしく学ぶ

とくしゅう
特集

まも 守ろう!なごやの生きものたち

がいらいしゅ ぜつめつき ぐしゅ かんけい
～外来種と絶滅危惧種の関係～

地球には人間のほかにも、多様な生きものが暮らしています。これらの生きものは、互いに影響しあいながら、ひとつの環境を形づくっています。わたしたちが暮らす名古屋にも、河川や緑地、田んぼやため池、干潟など、さまざまな自然環境があります。そこには、それぞれの場所に合った生きものが暮らしており、お互いに関わりあいながら全体のバランスを保っています。このような生きものと環境がつながりあって成り立つしくみを「生物多様性」といいます。

名古屋市内でも、かつてはもっと多くの生きものが見られました。しかしながら今では、残された自然の中でも、生きもの同士のバランスがくずれ始めています。これからも生きものが名古屋の自然の中で暮らし続けられるようにするためには、身近な自然を守り、育てていくことが大切です。わたしたちにできることをいっしょに考えてみましょう。



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



いろいろな話題をお届けします。

とくしゅう
特集

まも 守ろう!なごやの生きものたち～外来種と絶滅危惧種の関係～

エコパル
NEWS

ワークショッププログラムのご紹介、マンスリー企画展示、
なごや環境大学、藤前干潟ふれあい事業のご案内

1. 生きものがいっぱい! なごやの自然

名古屋市は約 230 万人が暮らす大都市で、多くの地域では都市化が進んでいます。しかし、東部の丘陵地や、庄内川の河川敷、南陽西部の水田、藤前干潟などには、今も生きものたちの“すみか”が残っています。

名古屋市の地形は、大きく「西部の沖積平野(※)」、「中央部の台地」、「東部の丘陵地」の3つに分けられます。市内には、それぞれの自然環境に合わせて、多様な生きものたちが暮らしています。

西部 (沖積平野)

市域の南西部は、平坦な沖積平野と干拓による新田地帯で、河川や海岸の干潟など、水辺の生きものすみかとなる環境が残っている地域です。水田や用水路ではナゴヤダルマガエルやニホンイシガメなどが見られますが、水田の減少や水路の改修によって生息場所が減っています。また、庄内川河口部の藤前干潟はシギやチドリなど渡り鳥の中継地として、四季折々に鳥たちがやってきます。

中央部 (台地)

市街地の大半は、ビルやマンションが建っています。また、地面のほとんどがコンクリートやアスファルトで舗装されているため、生きものの生息・生育できる場所が少なくなっています。しかし、名古屋城や鶴舞公園、熱田神宮などには、今もまとまった緑が残されています。名城公園ではカワセミなどの野鳥が見られ、熱田神宮ではコクワガタなどの昆虫が生息し、名古屋城のお堀ではオニバスやトチカガミといった水草が見られます。このように、名古屋のまちなかにも多様な生きものが暮らしています。

東部 (丘陵地)

尾張丘陵に連なる起伏にとんだ地形には、比較的まとまった面積で樹林地が残っており、市内では生きもの種類が最も豊富な地域です。点在する大型緑地には、「里山」といわれる環境が残っており、雑木林や湧水湿地を中心に絶滅のおそれのある貴重な生きものが多数見られます。とくに、市の北東端にある東谷山(標高 198.3 m、名古屋市内で最も標高が高い山)では、ニホンカモシカやシデコブシなどほかの地域では見られない動植物なども見られます。

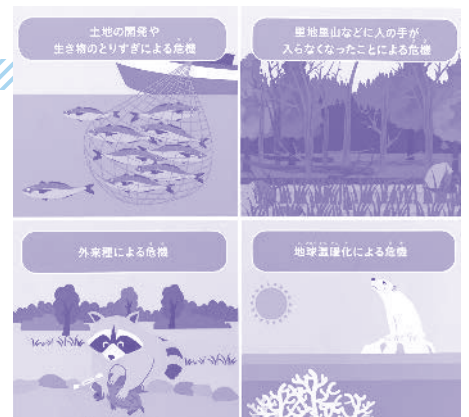


※沖積平野：雨などで山から流れ出た土砂が、川によって運ばれ、川の下流部や海の近くにたまってできた平野のことです。

出典：
 なごや生物多様性センターウェブサイト
 「なごや生きものライブラリー」
 なごや環境大学
 「なごや環境ハンドブック」

2. 生物多様性の危機

地球には、わたしたち人間を含め、数えきれないほど多くの生きものが暮らしています。その種類は、約 870 万種にも及ぶといわれています(国連環境計画調べ)。しかし現在、地球では多くの生きものが絶滅の危機にさらされています。過去の大量絶滅が火山の噴火などの自然現象によって引き起こされたのに対し、現在の危機は、おもに人間の活動が原因であると考えられています。人間の行動が環境に影響を与えることで、地球全体の生物多様性のバランスがくずれつつあるのです。



《危機の背景》

- ① 土地の開発や生きものとりすぎなどによる危機… 森林伐採や開発などにより生きものたちの生息地が減少しています。
- ② 外来種による危機… 在来種は外来種に食べられたり、エサやすみ場所を奪われたりして、数を減らしています。
- ③ 里地里山などに人の手が入らなくなったことによる危機… 人手不足などにより、かつて人が管理していた環境が維持できなくなり、生態系のバランスがくずれています。
- ④ 地球温暖化による危機… 地球の温暖化によって環境が大きく変化し、それに対応できなくなる動植物が増えています。

3. 外来種ってなに？

外来種とは、もともとその地域にいなかった生きものが、人間の活動によってほかの場所から運ばれ、すみようになつた生きものことです。たとえば、ペットとして飼われていた生きものが逃げだしたり、外国からの荷物にまぎれたりして、自然の中で暮らすようになることがあります。

外来種というと、「海外から日本に持ち込まれた生きもの」をイメージしがちですが、国内の地域どうしでも同じことが起きます。たとえば、もともと本州以南にしかいなかったカブトムシが人の手で北海道に持ち込まれた場合、その地域にとっては外来種となります。このように、日本国内の別の地域から持ち込まれた外来種を「国内由来の外来種」といいます。

さらに、その外来種が新しい環境に適応し、もともとその地域にすんでいた在来の生きもの（在来種）や人間生活に悪い影響を与えてしまうことがあります。このような外来種を「侵略的外来種」と呼びます。現在、世界各地で問題になっているのは、この侵略的外来種による影響です。

毒を持っていて危険



人をかんだり、刺したりする



農林水産物を食べる



《身近な外来種の例》



ミシシippアカミミガメ



アライグマ



オオキンケイギク

写真提供：環境省

出典：環境省ウェブサイト「日本の外来種対策」 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html#:~:text>

4. 絶滅危惧種ってなに？

絶滅危惧種とは、絶滅の危機にある野生の生きものことです。個体の数が減り続け、このままの状態が続くと将来的に姿を消してしまうおそれがある種をさします。絶滅が進む原因には、生きものが暮らす場所の減少、乱獲や盗掘（※）、そして地球温暖化など、さまざまなものがあります。特に近年は、人間の活動が大きな影響を与えていると考えられています。

では、わたしたちが暮らす名古屋には、どれくらいの絶滅危惧種がいるのでしょうか？名古屋市では、定期的に絶滅危惧種などの調査をしています。2020年に発表された資料では、絶滅危惧種に指定されている生きものは、413種でした。

ところが、2025年の資料では476種となり、わずか5年間で63種も増えています。かつては身近な存在で、子どもたちにも人気のオオクワガタなどの昆虫やミナミメダカなどの魚も絶滅危惧種に指定されており、生きものとのふれあいの機会が失われつつあります。

※盗掘：無断で他人の土地などから、動植物などを掘り出し盗むことをいいます。

「レッドデータブックなごや」より

絶滅危惧種 (2010年)	植物 167種	動物 178種	合計 345種
絶滅危惧種 (2015年)	植物 182種	動物 207種	合計 389種
絶滅危惧種 (2020年)	植物 197種	動物 216種	合計 413種
絶滅危惧種 (2025年)	植物 241種	動物 235種	合計 476種

《減っている生きものの例》



オオクワガタ



ミナミダカオス/ 撮影者：鳥居亮一



ニホンシガメ/ 撮影者：鳥居亮一

写真提供：なごや生物多様性センター

5. 外来種と絶滅危惧種の関係

その地域にもともといなかった外来種は、在来種を減らす原因になることがあります。外来種が新しい場所で暮らすには、エサをとったり、すみかを作ったりしなければなりません。そのため、そこにもともといた在来種と、エサや生息場所をめぐる競争が起こります。もし、外来種の方が在来種よりからだが大きかったり、繁殖力が強かったりすると、在来種はエサやすみかを奪われ、数が減ってしまいます。

つまり、外来種をみだりに持ち込んでしまうと、もともと生息域ではなかった土地に定着し、在来種を食べてしまったり競合してすみかを奪ってしまったりする可能性があります。

また、外来種は天敵が少ないために急速に数を増やしたり、在来種と交雑(※)したりして、在来種本来の遺伝的な特徴を失わせてしまう可能性などの問題もあります。

このように、外来種がもたらす影響は、在来種を絶滅に追い込む大きな要因となる場合があります。

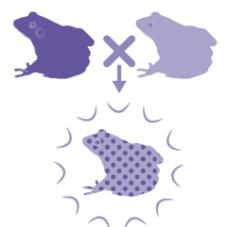
【捕食】在来種をたべる



【競合】在来種の生息・生育環境を奪ってしまったり、顔の奪い合いをする



【遺伝的攪乱】近縁の在来種と交雑して雑種をつくる



※交雑：遺伝的に異なる系統・品種などの間でかけ合わせること。交雑により雑種が作り出される。

出典：環境省ウェブサイト「日本の外来種対策」 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html#:~:text=>

6. みんなで守ろう! なごやの生態系

生きものの種は一度絶滅してしまうと、人間の力でもとに戻すことはできません。これからの10年、20年で名古屋の生態系がさらに悪くならないようにするためには、生きものたちの「すみか」をしっかり守ることが大切です。そのためにも、自然をこわさないように大切にしながら、「生きものにとってよりよい未来をつくるには何ができるか」を考えていくことが必要です。

(1) 地域の自然を知る

- ・名古屋に暮らす生きものたちと、いま起きている問題について知ろう
- ・生きもの観察会や環境イベントに参加してみよう

(2) 身近な自然を大切にす

- ・身近な生きもののために、家の庭やベランダに花や実をつける植物を植えよう
- ・公園や川など、自然のある場所をきれいに保ち、大切に使う

(3) 外来種を放さない

- ・生きものを最後まで責任をもって飼うことができるかどうか、飼育前によく考えよう
- ・ペットを飼えなくなっても、絶対に自然の中に捨てないようにしよう

(4) 買うときにも気をつける

- ・地元でつくられた食材、旬の食材をしよう
- ・環境にやさしいエコラベルのついた製品を選ぼう

名古屋の生態系を守るための取り組みは、すぐに始められる身近なことがたくさんあります。みなさんも自分のできることから始めてみましょう。



エコパルなごやの
マスコットキャラクター
「コパ」



★エコパルNEWS★

みんなで「エコパルなごや」に遊びに来てね!

「エコパルなごや」では、子どもから大人まで楽しく環境を学べるさまざまなプログラムを実施しています。今回は、「ワークショップ」の中から「資源と再利用」をテーマにした二つのプログラムをご紹介します。
※幼児・小学校低学年(1~2年生)は保護者同伴で参加可能です。

アルミCAN-CAN

空き缶を使って小物入れを作りながら、資源の有限性とモノを大切に使うことの必要性について学びます。



ペットホルダー

ペットボトルの底を利用して、キーホルダーを作ります。ペットボトルのリサイクルのしくみを理解し、ペットボトルからどのような製品が生まれるのかについて学びます。

体験をご希望の方は、エコパルなごやウェブサイトの「土日祝日等のプログラム実施予定」を確認のうえお越しください。



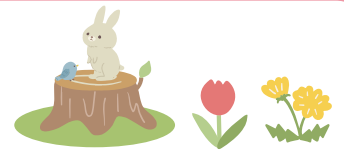
「なごや環境学習プラン2030」を策定しました

名古屋市が環境学習を進めていくための計画「なごや環境学習プラン2030」を策定しました。名古屋市公式ウェブサイトからダウンロードできるほか、環境学習センター、各区役所情報コーナー・支所などで本編の閲覧、概要版の配布をしていますので、ぜひご覧ください。

ウェブサイトはこちらから



マンスリー企画展示



4月
テーマ

土に還る容器で未来をつなぐ
「バガスフードサイクリング」

出展者

株式会社折兼

内容

使用後の容器をゴミとせず、再び資源として活用する「バガスフードサイクリング」の取り組みをパネルで紹介。サトウキビの搾りかすから生まれた容器が、どのように循環し未来を守るのかを解説。あわせて、4月18日(土)開催の「循環フェス名古屋2026」についてもご紹介します。

5月
テーマ

空気をよくする
発明家になろう

出展者

一般社団法人
日本室内空気保健協会

内容

部屋の空気のごみをきれいにするために、子どもたちが考えたアイデア作品を展示。空気を「考えて」「工夫する」発想が詰まった、未来につながる作品をご覧ください。

6月
テーマ

捨ててしまう物で
工作に挑戦!

出展者

公益財団法人
ちゅうでん教育振興財団

内容

いらなくなって捨ててしまうものを使った工作作品を募集します。最優秀賞は図書カード3万円分(各学年1名)を贈呈。合計54名への副賞や、全員がもらえる参加賞も!「リサイクル工作コンクール」の紹介です。



なごや環境大学

ガイドブック好評配布中!

春となり新生活が始まる方も多いと思います。「なごや環境大学」で環境講座を新しく始めてみませんか。もちろん初めてではない人も大歓迎!楽しい自然体験からじっくり学べる座学まで豊富な講座が皆さんをお待ちしております。詳しくはウェブサイトのラインナップや無料配布中の冊子「なごや環境大学ガイドブック2026前期号」をご覧ください。

ウェブサイトはこちら



ガイドブック配布場所 ●各區役所・支所 ●図書館
●生涯学習センター ●スポーツセンター等

★愛岐の里山たいけん隊

愛岐の里山は岐阜県多治見市にある愛岐処分場の中にあります。かつては荒れた山でしたが、地元の方々を中心として手入れをし、自然豊かな里山として管理されています。春には田植えやタケノコ掘り、秋には収穫したお米での五平餅作りやお芋掘りなど季節を感じる様々な体験と一緒に味わってみませんか。また、最終処分場の見学や夏にはまちの焼却工場にも訪れます。今年も愛岐の里山たいけん隊は全3回の連続講座。季節ごとの里山とごみについての学びをより深く体験できます。

五平餅



- 日時**
- ①2026年5月30日(土) 8:20~16:30
 - ②2026年8月6日(木) 8:20~16:30 ※昼食持参
 - ③2026年11月14日(土) 8:20~16:30

場所 ①、③名古屋市愛岐処分場(多治見市) ※エコパルからバスで行きます。
②名古屋市鳴海工場他(名古屋市)

受講料 全回通しで3,000円(バス代・保険料代・①、③の昼食代)

対象 小学4年生から中学2年生まで **定員** 20名

申込み 5月11日(月)必着・抽選 ※初めて申し込みされる方を優先します。 ※抽選結果はメールでお知らせします。

お申込お問合せ先 ①名前・フリガナ、②学校名、③学年、④性別、⑤住所、⑥電話番号、⑦ FAX 番号、⑧保護者のメールアドレス、⑨アレルギー・バス酔いの有無をご記入の上、メール、FAXで以下まで。

「なごや環境大学」実行委員会事務局(エコパルなごや内)
〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
TEL&FAX: 052-223-1223 / E-mail: jimmu@n-kd.jp / HP: https://www.n-kd.jp

こちらからも申し込みできます



藤前干潟ふれあい事業のご案内



Instagramアカウント「[fujimaehigata_fureai](https://www.instagram.com/fujimaehigata_fureai)」を開設しています!

藤前干潟ふれあい事業のイベントや藤前干潟に関する情報をアップしています。ぜひ、フォロー、いいね、シェアをしてください!名古屋市ウェブサイトでも最新情報をチェック!!

お問合せ先 藤前干潟ふれあい事業実行委員会(エコパルなごや内)

〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
TEL:052-223-1067 / FAX:052-223-4199 / E-mail: a2662@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

R8 藤前干潟ふれあい事業



ゴールデンウィーク期間の開館日のお知らせ

〈開館日〉4月29日(水・祝)~5月6日(水・振休)

〈閉館日〉5月7日(木)

名古屋市環境学習センター

エコパルなごや

申込・問合せ先

TEL : 052-223-1066 FAX : 052-223-4199

<https://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/>

E-mail : a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号 伏見ライフプラザ13階

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅[6番出口]徒歩7分

■開館時間/午前9時30分~午後5時 ■入館料/無料

■休館日/毎週月曜日 祝日の場合はその翌平日
年末年始 12月29日~1月3日

エコパルなごや

